



日本植物分類学会 ニュースレター

No. 74

Aug. 2019

今号のトピックス

2019 年度の野外研修会のお知らせがあります → 2 ページ

2019 年度の講演会のお知らせがあります → 3 ページ

メーリングリスト加入のお願いもあります。

未登録のみなさまはこの機会にぜひご登録ください → 6 ページ

目 次

諸報告

研究・普及推進委員会の発足について 2

お知らせ

2019 年度日本植物分類学会野外研修会のお知らせ 2

2019 年度日本植物分類学会講演会のお知らせ 3

日本植物分類学会第 19 回大会（岐阜）のお知らせ 4

第 19 回（2020 年度）日本植物分類学会賞

（学会賞および奨励賞）の受賞候補者の募集 4

『岐阜県植物誌』特価販売のご案内 5

日本植物分類学会公式メーリングリスト加入のお願い 6

寄稿

シノニムリストをつくらう（番外編） 6

会員消息 8

諸報告

研究・普及推進委員会の発足について

研究・普及推進委員会委員長 黒沢 高秀

「植物分類学の将来の発展と普及に関する委員会」の後継委員会として、「研究・普及推進委員会」が発足しました。委員が以下のように決まりましたので報告いたします。

黒沢高秀（委員長）、海老原淳、大西亘、角野康郎、志賀隆、首藤光太郎、末次健司、田金秀一郎、根本秀一、早川宗志、藤井伸二、横川昌史

お知らせ

2019 年度日本植物分類学会野外研修会のお知らせ

天野 誠（千葉県立中央博物館）

久本 洋子（東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 千葉演習林）

清澄山は、千葉県でももっとも広大な天然林があり、東京大学千葉演習林が設けられています。ここでは、シヤカシで構成される天然常緑広葉樹林、尾根筋に散在するモミの巨木、造林学実習用のスギの植林地など、バラエティーに富んだ植生が見られます。全体に柔らかい地層からなるので、谷が深く、溪流によく見られるフサザクラなどの溪流植物も見られます。海から吹く風は、霧や雲となり、千葉県でも最大の降水量を誇り、シダ植物も豊富です。南部の低地ではナチシダやクリハラン、カツモウイノデなどの南方系のシダが分布しています。一方標高 300m 程度の北部の丘陵地には、ヒメフタバランやヒカゲツツジなど関東地方でも標高 1,000m ぐらいの所に分布する種が遺存的に分布しています。崩れやすい地層は、崩落によって樹木の成長を妨げ、日当りのよい崖地を好む植物を育み、ケイワタバコの大群落やイズノシマダイモンジソウやツクシショウジョウバカマなどの草本類が見られます。

房総半島の先端の野島崎は、千葉県の磯浜の海岸植物が多く見られる景勝地で、南関東固有のイソギクなどをみることができます。それに続く平砂浦は、一面の砂浜で、多くの海浜植物が見られ、北限のハマオモトで有名です。一帯は南房総国定公園に指定されています。

【日程】2019 年 11 月 1 日（金）～ 11 月 3 日（日）

第 1 日目（1 日）：12 時 JR 外房線 安房鴨川駅に集合（東京発の特急わかしお 5 号が 11:56 に安房鴨川駅に到着）。小型バスにて千葉演習林清澄宿舎に移動し、演習林のバスに乗り換えて、演習林の奥部に移動、周辺の植物を 3 時間程度観察し、千葉演習林清澄宿舎で研修会を行う。その後、食堂にて懇談会を行う。

第 2 日目（2 日）：9 時に清澄宿舎を出発し、郷台林道を徒歩にて往復する。再び清澄宿舎に戻り研修成果の交換会を行い宿泊。

第 3 日目（3 日）：9 時に小型バスで清澄宿舎を出発し、野島崎に向かう。周回路を移動し、磯浜の植物を観察する。小型バスに乗り、そこから平砂浦（藤原）の道の駅でバスを降り、海浜植生を観察する。バスで、県道 410 号で JR 内房線館山駅へ向かう。12 時 30 分頃解散予定（12 時 46 分内房線千葉駅行があります）。

【募集定員】20名程度（申込締切9月末日。ただし、締切前であっても定員に達し次第、受付を終了しますことをご了承ください）

【宿泊先】東京大学千葉演習林清澄宿舎（鴨川市清澄）

【協力】千葉演習林 清澄宿舎の館内研修施設でセミナー予定、同定、標本作成可

【参加費】1万5千円（若干の予備費を含み、参加人数によっては幾分かの返金を予定しています）

宿泊費2泊（夕食・朝食付）、2日目・3日目昼食代、傷害保険料、送迎代など含む（集合・解散場所までの往復交通費等は自己負担）。

その他

- ・3日目は国定公園特別保護地区、第2種・第3種特別地域になりますので採集は原則禁止とします。
- ・1日目と2日目は採集可能です（研究の場ですので、実験装置や調査している植物には触らないようお願いいたします。ヤマビルが出ますので、各自対策をお願いします）。

【申込先】西野貴子（野外研修会担当委員）

電子メール：nishino_at_b.s.osakafu-u.ac.jp（_at_を@に変換してください）

ファックス：072-254-9932（西野宛てをご明記ください）

郵便：〒599-8531 堺市学園町1-1 大阪府立大学大学院理学系研究科C10棟

お申し込みの際に緊急時にご連絡できるお電話番号をお知らせください。

ご連絡いただいてから3日以内に受付の返信をいたします（郵便の場合にはお電話を差し上げます）。もし万が一、返信等がない場合には、大変恐れ入りますが再度ご連絡いただきますようお願い申し上げます。

今年度の野外研修会は、初めての千葉県での開催です。

長年、千葉県立中央博物館に奉職されている天野誠氏に世話役をお引き受けいただき、地名を冠した植物や名でよく知られる清澄山、そして南房総の海岸を歩き、多くの植物の北限になっている照葉樹林や磯浜、砂浜をじっくり巡ります。また、散策・滞在場所となる東京大学千葉演習林は、1894年（明治27年）に創設された日本最古の大学演習林で、数多の植物学者が薫陶を受けている地です。関東にわずかに残る天然林や南房総特有の植生とともに、多くの種の基準標本産地としても興味深い場所です。この機会にぜひご参加ください。

（野外研修会担当委員 西野 貴子）

2019年度日本植物分類学会講演会のお知らせ

講演会担当委員 布施 静香

2019年度の日本植物分類学会講演会は、大阪学院大学の林一彦先生に会場をお世話いただき、次のとおり開催いたします。演題など詳細につきましては次号のニュースレターでご案内いたします。

【日時】2019年12月14日（土）午前10時～午後5時05分

【講演会場】大阪学院大学 2号館地下1階2号教室（02-B1-02教室）

〒564-8511 大阪府吹田市岸辺南2丁目36番1号（電話：06-6381-8434）

【講演スケジュール】

- 10:00-10:05 ご挨拶 伊藤 元己 (会長)
10:05-10:55 稗田 真也 (滋賀県立大学)
10:55-11:45 本庄 三恵 (京都大学)
(11:45-13:00 昼食)
13:00-14:00 池田 啓 (岡山大学)
14:00-14:50 藤川 和美 (高知県立牧野植物園)
(14:50-15:00 休憩)
15:00-16:00 能城 修一 (明治大学)
16:00-17:00 高宮 正之 (熊本大学)
17:00-17:05 ご挨拶 林 一彦

日本植物分類学会第 19 回大会 (岐阜) のお知らせ

第 19 回大会準備委員長 川窪 伸光

2020 年の日本植物分類学会大会を、岐阜大学キャンパスで 2 月 29 日 (土) ~ 3 月 3 日 (火) に準備しています。早春の岐阜県は、山地部には雪が残り、平野部では早春草花が咲き始めます。実際、この時期、岐阜大学のすぐ北の山地部で森林を望めば白銀から冬枯れが、そして驚くほど美しい清流の渓谷に芽吹き予感が漂います。豊かな自然に囲まれた岐阜大学で植物分類学徒のみなさんの参加をお待ちします。例年よりも早めの開催となりますので、ご予定の確保をお願いします。

開催期間：2020 年 2 月 29 日 (土) ~ 3 月 3 日 (火)

会場：岐阜大学 柳戸キャンパス (岐阜市柳戸 1-1)

第 19 回 (2020 年度) 日本植物分類学会賞 (学会賞および奨励賞) の受賞候補者の募集

日本植物分類学会会長 伊藤 元己

学会賞選考委員長 瀬戸口 浩彰

以下の 2 つの賞の受賞候補者を募集します。候補者は、学会賞選考規定第 2 条に基づき、以下に該当する方です。自薦、他薦を問わず、会員の皆様の積極的な応募・推薦を期待しております。これまでの受賞者名等は、学会ホームページをご参照ください。

「**日本植物分類学会賞**」：植物分類学および日本植物分類学会の発展に特に顕著な貢献が認められた者に授与する。受賞者の資格は、10 年以上継続して本会会員である者とする。

「**日本植物分類学会奨励賞**」：受賞年の 4 月 1 日において満 38 歳以下で、優れた研究業績をあげた将来有望な研究者 (学生を含む) に授与する。受賞者の資格は、3 年以上連続して本会会員であり、主要な研究業績の一部を本会の大会または雑誌に発表している者とする。

募集要領

他薦の場合は、推薦する候補者の氏名と推薦理由、どちらの賞に推薦するかをお知らせください。自薦の場合は、(1) どちらの賞への応募か、(2) ご自分の研究全体に関するタイトル、(3) 略歴（生年月日、学歴、職歴など）、(4) 調査・業績の概要、(5) 業績リスト（論文、著書など）と本学会の大会での発表記録をワード・ファイルあるいは A4 用紙に記入して（書式は自由）お送りください。自薦、他薦を問わず、さらに必要な資料があれば、学会賞選考委員会から候補者の方に提出を依頼します。応募は、e-mail でファイル添付、または郵便でお願いします。

【書類送付先】〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町 京都大学大学院人間・環境学研究科
瀬戸口浩彰 宛

e-mail: setoguchi.hiroaki.2c_at_kyoto-u.ac.jp（_at_ を@に変換してください）

【応募締切日】令和元年9月30日（月）

【その他】両賞の受賞者は、令和2年3月の日本植物分類学会大会（岐阜）において表彰されます。また、同大会において受賞講演を行っていただくことを原則としております。

『岐阜県植物誌』特価販売のご案内

庶務幹事 海老原 淳

高橋弘会員から『岐阜県植物誌』特価販売の情報をいただきましたので、お知らせいたします。

『岐阜県植物誌』が8月24日に文一総合出版から全国発売されますが、以下の通り割引購入ができませんので、ご利用下さい。発売前に予約もできます。

本の代金は1冊の定価12,960円（8%税込）のところ、9,600円＋税（8%の場合は10,368円、10%になった場合は10,560円）です。ご注文される方は、メールかFAXで以下の情報を必ず椿さんまで直接お知らせください。（営業部では受け付けておりませんのでご注意ください）

■メールでご注文の場合

【ご注文メールの宛先】tsubaki_at_bun-ichi.co.jp（_at_ を@に変換してください）

【メールの件名】岐阜県植物誌著者割引注文

【担当者】文一総合出版 椿

【請求先】※必須

【郵便番号】※必須

【住所】※必須

【電話番号】※必須

【注文冊数】※必須

【備考】

■FAXでご注文の場合

【ご注文FAX】03-3269-1402

【FAXの標題】岐阜県植物誌著者割引注文

他は同上です。

代引き手数料は1～2冊は400円＋税、3冊～9冊は600円＋税です。

8月中旬頃に本が出来次第、ヤマト便で発送いたします。

日本植物分類学会公式メーリングリスト加入のお願い

ホームページ担当幹事 阪口 翔太

日本植物分類学会の公式メーリングリスト (<http://www.e-jsps.com/wiki/wiki.cgi?page=%B0%C6%C6%E2%C2%BE%2FML>) は、学会大会、講演会、出版物、研究助成・公募等に関するメールを会員に配信し、情報共有を図ることを目的に設立されました。しかし、会員のメーリングリスト加入率が低く（約35%、2019年3月20日現在）、会員への重要な情報伝達手段として機能していない現状があります。メーリングリストへの加入は、学会入会時にアドレス登録を希望することで手続きが行われますが、その機会を逃してしまった会員や、メーリングリストの存在自体を知らない会員もいるのではないかと思います。そのために、植物分類学会員でありメーリングリストにアドレスを登録されていない方には、新規登録をご検討頂きたいと思っております。登録を希望される方は、ホームページ担当幹事（連絡先：hp_at_e-jsps.com, _at_ を @ に変換してください）までご一報頂きましたらアドレスを登録させていただきます。また、現在は使用していないアドレスを登録されている方については、有効なアドレスに登録し直せますので遠慮なくお問い合わせください。

（※本メーリングリストへの投稿においては、執行部が内容を事前確認させて頂き、会員にとって有益な情報と判断されたものを配信しています。そのため一般的なメーリングリストとは異なり、加入者が自由に投稿すること、メーリングリスト上でやり取りを行うことはできません。この点をご了承下さい。）

寄稿

シノニムリストをつくろう（番外編） シノニムリストに使われるラテン語や略号

黒沢 高秀（福島大学共生システム理工学類）

シノニムリストにはラテン語や略号が頻出します。これがシノニムリストの敷居の高さの原因となっているかもしれません。よく出てくるものを一覧にしました。より詳細は、Stearn (1992)、日本植物分類学会国際植物命名規約邦訳委員会 (2014) を参照してください。

<i>auct.</i>	<i>auctorum</i> : (見解など) 著者達の; <i>auct. non</i> …, 著者達の (見解) で ... の (見解) ではない
<i>basion.</i>	<i>basionymum</i> : 基礎異名
<i>comb.</i>	<i>combinatio</i> : 組み合わせ; <i>comb. nov.</i> , <i>combinatio nova</i> , (学名の) 新組合せ; <i>comb. nud.</i> , <i>combinatio nudum</i> , 基礎異名を引用しないなど正式発表の条件を満たさないで発表された組み合わせ
<i>distr.</i>	<i>districtus</i> : 地方, 地区 (<i>distributio</i> の略を意味することがあるので注意)
<i>distrib.</i>	<i>distributio</i> : 分布
<i>ex</i>	～に由来する。A ex B の場合, A がその学名の考案者やより早い使用者で, B がそれを参照して学名を正式発表した者
<i>excl.</i>	<i>exclusus</i> : ～を除く
<i>f., fig.</i>	<i>figura</i> : 図
<i>fide</i>	～によると
<i>in litt.</i>	<i>in litteris</i> : 書簡や私信内で (つまり有効発表されていない)

<i>in sched.</i>	<i>in sheda</i> : 標本のラベルやシート上で (つまり有効発表されていない)
<i>incl.</i>	<i>inclusus</i> : ~を含む
<i>l. c., loc. cit.</i>	<i>loco citatio</i> : 上記文献中
<i>MS.</i>	<i>manuscriptum</i> : (出版されていない) 原稿; <i>MSS. manuscripta</i> , (複数の) 原稿
<i>n. n., nom. nud.</i>	<i>nomen nudum</i> : 裸名 (記載文や判別文を伴わないなど正式発表の条件を満たさずに発表された学名)。 <i>nomen novum</i> などと紛らわしいので <i>n. n.</i> は用いない方が良い。
<i>n. v.</i>	<i>non visus, non vidi</i> : 未見
<i>non</i>	~でない
<i>nov.</i>	<i>novus</i> : 新
<i>op. cit.</i>	<i>opere citato</i> : 前掲文献中, 上記引用文献中
<i>p. p.</i>	<i>pro parte</i> : 一部
<i>pl.</i>	<i>planta</i> : 植物
<i>quor., quorumd.</i>	<i>quorumdam</i> : 一部の著者達の
<i>s. n.</i>	<i>sine numero</i> : 番号なし
<i>sensu</i>	~の見解; <i>sensu A non B</i> , <i>B</i> の見解とは異なる <i>A</i> の見解
<i>syn.</i>	<i>synonymon, synonymia</i> : シノニム
<i>sub</i>	~の下で
<i>t., tab.</i>	<i>tabula</i> : 図版 (表ではないことに注意)

今後の予定

- 2 「必須文献・定番文献を付け加える。」
- 3 「国内文献とつきあわせる。」
- 4 「外国文献とつきあわせる。」

引用文献

- 日本植物分類学会国際植物命名規約邦訳委員会 (編). 2014. 国際藻類・菌類・植物命名規約 (メルボルン規約) 2012 日本語版. 北隆館, 東京.
- Stearn, W. T. 1992. Botanical Latin, History, Grammar, Syntax, Terminology and Vocabulary, forth edition. David & Charles Publishers, Brunel House.

編集後記

前幹事の堤です。今回のシノニムリストの記事は、ページの都合で番外編のみとさせていただきます。楽しみにされていた方には申し訳ありません。これまでシノニムリストについてわかりやすくまとめられた記事はなく、みなさまにとってたいへん有用な情報と思います。原稿はすでに黒沢さんよりいただいておりますので、次号以降に掲載してまいります。永益さんの学名のラテン語と合わせて、みなさまに順次お届けしていきたいと思っておりますので、どうぞお楽しみに！ と前幹事がいうのも変かもしれませんが。

(前ニュースレター幹事 堤 千絵)

